



日本福祉大学

国際福祉開発学部だより

News Letter

Faculty of International Welfare Development

August. 2015 vol.

05

〒477-0031 愛知県東海市川南新田 229 日本福祉大学 国際福祉開発学部 <http://facebook.com/nfuiwd/>

東海キャンパス、国際福祉開発学部始動！ 学ぶは、海外で通用する力、めざすは、国際社会のステージ！

国際福祉開発学部 学部長 小倉 美津夫



「名鉄名古屋駅」から 17 分。通学便利な「太田川駅」から徒歩 5 分。国際福祉開発学部が移転。「伝える力」「見据える力」「共感する力」「関わる力」を日本福祉大学スタンダードとして、総合基礎科目や魅力的な専門科目を多く置いています。



国際福祉開発学部は、異文化に出会う驚きと楽しさに満ちた 4 年間を、ALL (Active Learning Laboratory) 教室をフル活用し、座学よりはアクティブ・ラーニングを重視し、多様な国際体験を通しコミュニケーション力、ファシリテーション力、問題解決力などを身に付け、海外、国内を問わず活躍できる人材を養成しています。

英語や ICT スキルを含めた“多文化コミュニケーション”、国際舞台で協働するために必要な英語力・福祉力を習得します。

また、フィリピン、カンボジア、マレーシア、オーストラリア、インド、アメリカなど地域開発の現場や教育現場や福祉施設

で体験を通して学ぶ「国際フィールドワーク」という科目を全員が履修しています。

世界に発信する + 1 のプレゼンテーション指導、8 人のネイティブ講師が日常的に学習支援するグローバルラウンジ、海外の学生と協働しながら学生自らの手で運営する国際交流イベント“World Youth Meeting”と国際福祉開発学部での 4 年間で、あなたを世界に通じる国際人にします。

4 年後、中学・高校の英語教員、国際展開している企業で活躍できる企業人、航空業界・観光業界などで国際的サービスに従事するビジネスパーソン、海外途上国での発展に貢献する NPO、NGO 等のスタッフ、国内の地域発展に貢献する公務員などのライフステージが待っています。

目次

- 1 東海キャンパス、国際福祉開発学部始動！
学部長 小倉 美津夫
- 2 1 年生の声
相手と会話を楽しむために 1 年 熊谷 モニシャ
オンライン英会話で意思疎通 1 年 芦浦 知惟子
- 3 新入生セミナーを企画して
協働する事の大切さ 2 年 梶田 真由
- 4 国際協働インターンシップの取り組み
もう一つのキャンパス！“中部国際空港セントレア”

- 5 先輩の進路紹介
さらに大きな夢にむかって！
2015 年 3 月卒業 堀田 真也
- 6～7 海外でのフィールドワーク体験を終えて
アメリカ／フィリピン／カンボジア／
マレーシア 各研修の引率教員
- 8 学部の教員・スタッフ
- 8 学部の年間予定

1 年生の声

| 相手と会話を楽しむために

1 年 熊谷 モニシャ (名古屋南高校)



私が日本福祉大学国際福祉開発学部に入学を決めた理由は、私自身英語を話すことや、海外について興味があったからです。そして今、私は自分の選択にとっても感謝しています。

6月にアメリカのノーステキサス大学の学生の方たちと交流する機会がありました。各自一人一人の学生に同行して東海キャンパスを案内し、一緒に昼食を食べました。ノーステキサスの学生の方は日本語を勉強しているため、簡単な会話などは通じるのですが、英語で表現しなくてはいけない場面も多々ありました。それは昼食の際に、メニューを説明する時のことでした。相手の文化にないものを説明しなければなりません、私が知らない単語もたくさんあります。高校までの私では相手に伝える前に諦めていたはずで、英語を話すときに、どうしても気恥ずかしさが勝ってしまったり、自分の英語力のつたなさが気になったりして、話すことを怖がってしまっていたと思います。そんな私が、文法は正しいものではなかったかも知れないけれども、怖がらず相手とコミュニケーションを図ろうとすることができました。自分自身のこの成長は、国際福祉開発学部のおかげだと思っています。まだ大学に入学して数ヶ月しか経っていませんが、この

短い期間に英語を話す機会がたくさんあります。それは本当に少しずつでも確実に私に自信をつけさせると同時に、自分の英語力を確認できる良い機会にもなっています。

私はこの学部に入って、英語で話す際に、格好をつけなくていいということを学びました。いずれはしっかりと文法で話せるようになりたいですが、まずは、相手に何かを伝えようという努力が大事なのだと思います。英語は言葉を伝えるためのただのツールであって、自分の意見を伝えることができたなら結果オーライだと私は思っています。まずは、相手と会話を楽しむために英語を学んでいきたいです。



| オンライン英会話で意思疎通

1 年 芦浦 知惟子 (セントヨゼフ女子学園高校)

最初は Skype を使うこと自体に慣れていなかったもので、とても緊張しましたが、先生が自分のレベルに合った英語を使って話してくれたので、分かりやすく安心しました。まだ始めて間もないですが、1日1回のペースを守って頑張っています。最近では、授業で外国の先生と話すときに少しは自信を持って話せるようになった気がしています。

このシステムの良さは、会話する相手をたくさんの先生の中から選ぶことができ、さまざまな話題で話すことが出来ることにあります。日本に居ながら、フィリピンを旅している感覚で、楽しく異文化交流しています。毎日、英語の授業があるので、リスニングやコミュニケーションなど活かせる機会は沢山あります。英会話サプリを活用して、「楽しかったな。」という感想だけで、終わることのないように、学んだ力を活かせるように頑張りたいです。個人的には、TOEICのスコアアップと国際プレゼンテーション大会（ワールド・ユース・ミーティング）プレゼンテーションを務めますので、海外の参加者ときちんと意思疎通ができるようにしたいです。



新入生セミナーを企画して

協働する事の大切さ

国際福祉開発学部の新入生歓迎行事として、2015年4月11日から12日に、中部国際空港（セントレア）で春季セミナーを開催しました。1年生全員が参加するとても大切な行事で、2年生3年生も実行委員として企画・運営に当たりました。春季セミナーは、1年生に、国際福祉開発学部はどのような学部なのかを知ってもらい、学生生活を始めることに不安に感じていることを少しでも減らしたいということが目的です。今年の春季セミナーでは、セントレア全体を使ったスタンプラリー、立食パーティー、セントレアホールで卒業生に卒業後の進路について話していただくことなど、とても盛りだくさんでした。またカナダ人の先生を巻き込んで、昼食奪還ゲームも行いました。すべてのアクティビティーで、1年生と上級生がグループで活動できるよう、私たち春季セミナー実行委員は企画しました。なぜかと言うと、国際福祉開発学部では夏にWYMという学部行事があります。この行事は1年生2年生が中心になり、企画・運営からプレゼンテーションをする幅広い係りに分かれ行動します。この時最も必要になることが「協働する」ことです。その準備として、私たち春季セミナー実行委員は班ごとで行動し協力できるようなアクティビティーを考えました。春季セミナーを通して1年生から「大学生活に

2年 梶田 真由（日本福祉大学付属高校）



対する不安がなくなった」「先輩方ともっと話したかった」という声をいただくことができました。春季セミナーの中心となる実行委員は5人しかいません。はじ

めは自分達だけでなんとかすると考えていましたが、中盤に差し掛かると苦しくて逃げ出したいと思うほどつらかったです。しかし、他の2年生にも協力していただき、円滑に春季セミナーを進めることができました。



た。協力することの大切さをもっとも知ったのは、実は私たち実行委員だったかもしれません。これからも、協働することの大切さをいつも念頭に置きながら、有意義な学生生活を過ごしていきたいと思います。



国際協働インターンシップの取り組み

もう一つのキャンパス！ “中部国際空港セントレア”

国際福祉開発学部のある東海キャンパスは、中部国際空港セントレアへ電車を利用して約20分のところに位置し、英語力を活かした空港ならではのインターンシップを積極的に展開しています。専門的な業務に携わりながら、国際感覚を日常的に身に付け、将来のキャリアプランを形成します。また、これらの業務体験は、就業体験として正規の手続き・審査を通過することによって、正課科目である「国際協働インターンシップⅡ」の単位修得も可能としています。

ホテル（フロントクラーク）

中部国際空港セントレアホテル
名鉄グランドホテル



高澤 ほたる	(4年／千種高校)
丸山 祐奈	(4年／長野東高校)
石黒 春佳	(3年／日本福祉大学付属高校)
山田 桃子	(3年／日本福祉大学付属高校)
岸 玲司	(1年／高田高校)

中部国際空港内および名古屋駅前のホテルでは、利用者のおよそ半数が外国人のお客様となります。想像していた以上に英会話を必要とする場面が多く、英語力を試される機会に緊張しています。

ホテルのフロントクラークの主な業務は、宿泊ゲストのチェックインやチェックアウトの手続きをはじめとした、さまざまなサービスを担当します。そのほか、「リザーベーション」業務は、主に電話で宿泊予約の確認や、ゲストからの依頼事項の手配業務を担当します。

外国人との電話のやりとりは、まだまだ勉強不足で、社員さんを頼っていますが、職場の雰囲気もよく、丁寧にご指導いただき、多少の自信が付きました。本番の就活が楽しみです。

中部国際空港内（国際線到着ロビー／チェックインカウンター／出国審査場） ブルーチップエアポート（デルタ航空）



中田 祥平（1年／富山第一高校）

就業体験の流れは、デルタ航空便の利用者のお出迎えとお見送りです。コミュニケーションは英会話となり、語学力アップも期待できますが、やはり、礼儀やマナーを身に付けられることが優先されます。

英会話力はまだまだですが、“おもてなし”の気持ちを大切にすれば、意外と通じるものです。私は、パイロット志望なので、空港内を自由に行き来できるパスをいただき、心はルンルンで働いています。



先輩の進路紹介

さらに大きな夢に向かって！

大学では、自分がやりたいことを見つけて、それらに取り組むことが多かったように感じます。国際という学部に入ったことにより、海外へ行きたいという夢も何度も叶えられました。二年次には、幼少時から憧れであったアメリカにも行くことができました。アメリカの生活は、毎日が刺激的でした。語学では、生の英語を耳で聞くことで自然に聞くことにも慣れ、話すことも自然にできるようになりました。実際に行くことで得る物が多くあり、学生時代の一番の思い出もありました。また、小学生の時から続けていたバスケットボールの経験から、小学生にバスケットボールを教える活動もしていました。そこでは、子ども達以外にも様々な世代の方と触れ合う機会もあり、社会人になる準備もできていたように感じます。私も子ども達と4年間共に学び、成長できました。

私は、世界と繋がりが持てる仕事がしたいと考えていました。就活時には、世界中に行ける仕事や、海外に支社がある会社に就職したいと思っていました。海外に飛び込んで仕事をするのは簡単ではないので、日本で基盤を形成してから世界に飛び込みたいと思っていました。

入社前には全国の同期社員と共に、香港・マカオへ訪問しました。この経験から、自信を持ってお客様に香港とマカオのことを紹介できます。入社前も後も私

2015年3月卒業 堀田 真也（春日井南高校）



どもの常務の言葉には「百聞は一見にしかず。」この言葉の通りに、行くことで初めてわかることがあります。聞いただけでは想像ができません。研修やプライベートを通じて今後も、様々な場所を訪れたいと思っています。私の今の仕事は、企業や学校を訪問し旅行の営業をすることです。旅行のお話があれば、企画から見積もりまで作成します。旅行当日には、添乗員としてお客様の旅行のバックアップにも努めます。そして、幼い頃から夢見ていた、海外で仕事をするのを目標にしています。当社はアジアとアメリカに支社があるため、海外で活躍できるチャンスもあります。近年のインバウンドの影響を受け、海外からのお客様も増加しています。国内のみならず世界中の方が楽しめる旅行を企画するのが、私の今の夢です。

海外でのフィールドワーク体験を終えて

アメリカ研修（クラークカレッジ）

引率教員 小倉 美津夫

アメリカワシントン州でホームステイをしながら、現地の学校、家庭および地域社会において、異文化体験や交流活動、地域の福祉施設訪問などにより、語学力の向上を図ると共に、国際的視野を拡大し、国際親善および国際理解の精神を養い、21世紀を担う心豊かなグローバルな人間の育成を図ることが目的でした。



上の写真はクラーク・カレッジでツアーディレクターのジョディとのワンショット。下の写真はヴァンクーバーのシニアセンターでの交流。学生たちは積極的に英語を使おうとする姿勢がめきめき向上し、クラーク・カレッジの学生たちに自ら声をかける毎日になりました。シニアセンターでは、カードゲームに興じて会話が弾み、お互いに別れを惜しむ姿が印象的でした。

フィリピン研修（フィリピン国立大学）

引率教員 千頭 聡

フィリピン研修は、国立フィリピン大学（UP）が、プログラム全体の企画・運営を担っていることが大きな特徴です。毎回、含蓄あるテーマが示されますが、今回のテーマは「人類はどこへ向かうのか—文化と環境」。フィリピンの長い植民地時代の歴史を振り返りつつ、社会の行く先を考えようという壮大なテーマです。研修プログラムは、講義・現場視察・コミュニティやNGOとの交流・振り返りのためのワークショップから構成されていました。フィリピンの開発や日本とフィリピンとの関係性などに関する講義、NGOによる伝統的な智慧の伝承に関するお話とUP学生のダンスサークルのパフォーマンスなど、歴史の蓄積を踏まえた幅広い文化を学びとてもいい機会となりました。

もちろん、楽しみの一つは大自然の中でのアクティビティ。

マニラから南へ60キロにあるタール湖での2泊3日の滞在は、湖を船で渡し、馬に乗って山登り、



カヤックによる川下り、キャンプファイヤーなど、忘れることのできない体験が詰まった時間でした。また、都市部でのホームステイでは、暖かくて団結力のあるコミュニティの力強さに心を打たれた2日間でした。

最後の振り返りは「双六づくり」。学んだすべてのことを、双六の中に表現しようという、これまた壮大なお題でした。学生たちがこの難題に果敢に取り組んで、素晴らしい双六が出来上がりました。フィリピンの発展の歴史が創り上げた文化、人々の温かさや力強さ、雄大な自然、思い出がぎっしり詰まった2週間でした。



カンボジア研修 (王立プノンペン大学／カンボジア工科大学)

引率教員 佐藤 慎一

カンボジア研修は、研修のプログラム作りの段階から学生が中心で取り組むことに特徴があります。過去のカンボジア研修から想定される訪問先は候補としてはありますが、訪問日時や活動内容についての調整は自らで行っていく必要があります。こうしたプロセスを経て、現地では、貧困支援を行うコミュニティ、学校教育を支援する組織、小学校、孤児院、大学等を訪問しました。



写真は貧困地域で NPO が支援する小学校で子どもたちと絵本を読んでいる様子（写真上）、日本とカンボジアの保険制度について双方がプレゼンテーションした後にディスカッションしている様子（写真下）です。主に1年生を対象とした研修であるため、特定のテーマについて深めるといよりもむしろ、多様な体験をすることを重視しています。訪問先の特性に合わせて頭を切り替える必要があり、見た目のプログラム以上に忙しく感じる研修だったように思います。

現地では、夜は滞在先で参加者全員が集まってその日の出来事を振り返り、帰国後も報告書のまとめや現地での体験を伝えるための活動が企画・実施されています。多様な体験を次に繋げていくべく、学生たちは考え・動き続けています。

マレーシア研修 (マレーシア科学大学)

引率教員 張 淑梅

多宗教・多民族文化を共存させながら、経済を著しく発展させてきたマレーシア社会のあり方を学習する目的として、ペナン島にあるマレーシア科学大学(USM)の協力の下で研修が実施されました。

事前学習においては、教員による講義やマレーシア留学経験のある先輩との交流のほか、参加者の関心によってグループ分けが行われ、マレーシアの宗教、ハラル食品、マレーシアそしてペナンの経済発展の現状について調査してもらいました。

現地でのプログラムでは USM の教員による講義、ペナンでの日系および現地企業の見学(7施設)、ジョージタウンとクアラルンプールへの視察、そして現地の人々(ホストファミリーや USM の学生たち)との交流を通じて、多国籍企業の重要な拠点ともなっていることから、今日のグローバル経済社会の現状を学び、異文化社会についても多くのことを体験できました。

さらに、①今後の学習に向けての問題意識を発見し、②物事への積極的なかわり方、世界をもっと理解し、世界をもっと関わりたいという意識の向上、③日本における学習のモチベーションの向上、等が今回の研修で得た大きな成果となりました。本研修で得た経験は必ずや彼らのこれからの人生に対して少なからず影響を与え、そして後々生きていくことと信じています。



学部の教員・スタッフ



小倉 美津夫

英語教育
英語学
教育学（生徒指導論）



岡本 真理子

応用経済学



非常勤講師（一部）

Edward Scruggs
Erin Sakakibara
小川 圭子
加藤 とも子
烏山 逸雄
John Parsons
David Leaf
土井 佳彦
成田 有子
野崎 泰志
服部 美香
Ximena Elgueta
松尾 由佳理

水野 愛子
三輪 敦子
山田 さつき
Lucas Ford
Renata Rusu



東海事務室の学部担当者



西峯 太志郎



沖田 一成 Erick



千頭 聡

環境評価、環境政策、
持続可能な開発、環境教育、
ESD



影戸 誠

教育学



吉村 輝彦

都市計画・建築計画



吉田 直美

社会福祉学



小國 和子

文化人類学・民俗学



Gary Kirkpatrick

Motivation for Language Study,
ICT in language acquisition



張 淑梅

経営学
組織論
サービス・マネジメント



斎藤 千宏

国際社会開発



中西 哲彦

教科教育学



佐藤 慎一

教育学

国際福祉開発学部 ブログ <http://blog.n-fukushi.ac.jp/kokusai/>

学部の年間予定

◆前期

- 7月1日(水) 1年生向けの教職希望者相談コーナー
- 7月16日(木) 学内 TOEIC テスト
- 7月17日(金) 「美浜町草の根国際交流事業シンガポール派遣」の英会話レッスン1（学生が講師）
- 7月19日(日) オープンキャンパス（模擬講義、学生企画、グローバルラウンジ体験）
高校生向け英語学習セミナー
中部国際空港スカイデッキでセントレア盆踊りに参加
- 7月23日(木)～29日(水) 前期試験期間
- 7月31日(金) 「美浜町草の根国際交流事業シンガポール派遣」の英会話レッスン2（学生が講師）
- 8月1日(土) ワールドユースミーティング海外参加者来日（インド、インドネシア、カンボジア、韓国、台湾、フィリピン、マレーシア）
- 8月3日(月) ワールドユースミーティング海外参加者との懇親会
- 8月7日(金)・8日(土) ワールドユースミーティング（国際英語プレゼンテーション大会）の開催
- 8月9日(日) ワールドユースミーティング海外参加者の観光企画
- 8月16日(日) オープンキャンパス（模擬講義、学生企画、グローバルラウンジ体験）



- 9月1日(火) 国際フィールドワーク（1年生の海外研修）希望票提出期限
- 9月2日(水)～11日(金) 夏休み集中英語講座（全学年）

◆後期

- 9月16日(水) 後期授業開始
- 9月24日(木) JICA ボランティアセミナー
- 10月1日(木) マレーシア科学大学交換留学申込期限
- 10月28日(水) 国際フィールドワークの事前学習開始
- 10月 2016 年度ゼミ選考オリエンテーション
- 10月 Global Lounge ハロウィーンパーティー
- 11月 東海キャンパス祭
- 11月 シンガポール中学生受入事業
- 11月 3年生の就職活動トリガーイベント
- 12月 全学教育センターコンテスト
- 12月 Global Lounge クリスマスパーティー
- 1月 学内 TOEIC テスト
- 1月 卒業論文発表会
- 2月 国際フィールドワーク実施
- 3月 在学生オリエンテーション

発行人：日本福祉大学 国際福祉開発学部
〒477-0031 愛知県東海市川南新田 229
TEL. 0562-39-3811 FAX. 0562-39-3281
<http://facebook.com/nfuwd/>
編集人：国際福祉開発学部 学部長 小倉 美津夫
お問い合わせ：kokusai@ml.n-fukushi.ac.jp